

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	わくわくキッズ倶楽部 武岡事業所		
○保護者評価実施期間	令和8年1月4日		令和8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9 (回答者数)	5
○従業者評価実施期間	令和8年1月4日		令和8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 利用児の主体性に寄り添い活動内容を工夫している 広いグラウンドがあるため、思い切り体を動かせる 	<ul style="list-style-type: none"> 職員間でマンネリ化しないような活動内容の工夫と、利用児からの意見を取り入れて活動に組み込んでいるため意欲的に参加している様子が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動活動、微細活動、社会活動など様々な内容を取り入れるためにより良い支援内容を職員間で話し合う。 研修参加などで他施設、他事業所で取り組んでいる内容を参考にする。
2	<ul style="list-style-type: none"> サッカー教室やサッカー大会、夏祭りの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 他事業所との関わりや保護者との関わりなど交流できる場になっている。 子どもたちが頑張ってサッカー教室に取り組んでいる姿を連絡帳や送迎時に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 取り組んでみたいイベントなど意見を聞いて、開催できるか調整する。 他事業所からの意見を参考にしたり、合同で開催して交流の場を広げる。 茶話会などの集まりに負担を感じる保護者もいるため、参加の無理強いはいはしない。
3	<ul style="list-style-type: none"> 職員の専門性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 専門職の視点で学童期に必要な課題の提供を見直したり、意見を交換することが増えた。 保育士経験や体操指導経験のある職員の視点で、活動内容や支援方法を全体で模索している。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修参加の機会を設け、全体で知識や技術を周知、情報共有することで職員の質の向上を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 学校、地域との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 就学とともに連携が薄れているため、学校での利用児の様子が見えにくい。 地域交流の場がわかりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 連絡会の必要性を伝え、利用児の学校と事業所での様子を話し合う場を設ける。 学校での様子を見る機会があるか確認する。 利用児の学校や児童クラブ、習い事に協力依頼をする。 鹿児島市や武岡地域で行われている催しに参加できるかどうか調査し、確認する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 保護者同士の交流や事業所見学 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者同士で交流しやすい参加できる催しが少ない。 午後からの利用で時間数的にも見学しにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 参加しやすい催しを取り入れる。 長期休みなどで参観できる機会を作る。
3	<ul style="list-style-type: none"> 建物のバリアフリー化 避難時の訓練について 	<ul style="list-style-type: none"> 2階に療育室があるため階段を不便に感じる。長い廊下と階段、外にトイレがあるため危険度も高い。 事業所内では避難訓練を毎月行っているが、保護者と連携を取って災害時の引き渡しについて把握できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 転落防止のため柵を設置(R8.1月～)階段手すりの設置も検討中。 災害時の引き渡しカードの重要性や、保護者と引き渡し訓練の実施。